

第3回 東京芸術文化評議会 議事要旨

- 1 日 時 平成20年2月14日(木曜日) 午後1時から午後3時まで
- 2 場 所 東京都庁第一本庁舎7階 大会議室
- 3 出席者 石原都知事・猪瀬副知事
安藤評議員、鳥海評議員、野村評議員、福田評議員、福原評議員
宮本評議員、森評議員
逢坂専門委員、太下専門委員、片山専門委員、菅野専門委員、後藤専門委員
杉浦専門委員、高萩専門委員、長田専門委員、西巻専門委員、吉本専門委員

4 次 第

- (1) ジュード・ケリー氏(ロンドンオリンピック2012文化教育委員会最高責任者)
との意見交換《非公開》
- (2) オリンピック文化プログラム《非公開》
- (3) 部会からの報告

5 発言要旨

福原会長

お忙しいところ、皆さんご出席いただきまして、ありがとうございます。

ただいまから第3回東京芸術文化評議会を開かせていただきます。

事務局から資料の確認とご説明をまずお願いいたします。

杉谷文化振興部長

(資料の確認と説明)

それから、蜷川先生は、ご出席の予定でありましたが、急な所用でご欠席というご連絡がございました。以上でございます。

福原会長

ありがとうございました。

本日の議事は今ご紹介のとおりでございますけれども、オリンピック文化プログラムについては第2回の評議会と同様に非公開とさせていただきます。最初に文化プログラム関連の議事がございますから、恐れ入りますが、報道関係の方のご退出をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

《非公開》

福原会長

続いて、事務局と部会から若干の報告をさせていただきます。芸術文化発信プロジェクトについて、事務局から説明をいたした後、都立文化施設のあり方検討部会及び芸術文化活動支援のあり方検討部会から、吉本部長にお話をいただきまして、さらに文化政策グランドデザイン検討部会の後藤部長代理から、今検討している過程の状況について簡単にご説明をいただいた後、皆さんにまたご発言をいただこうと思います。

それでは、事務局からまず。

杉谷文化振興部長

ほんとうに手短にご説明させていただきます。平成20年度予算案の概要についてでございます。資料はお手元の「平成20年度予算案の概要」でございます。

平成20年度は、東京芸術文化評議会からの提言を受けまして、芸術文化発信のプロジェクトの展開といたしまして予算案11億8千万円を計画してございます。このプロジェクトでは、第2回評議会で示されました、世界の主要都市と競い合える芸術文化の発信、芸術文化を通じた子どもたちの育成の2つの柱に基づきまして、伝統芸能、演劇分野でのここに書いてございます色々な各事業がございまして、それから、音楽、美術、写真・映像、その他の分野において、それぞれさまざまな事業を展開することとしてございます。ここに紹介しました事業以外にも、芸術文化発信事業助成制度といたしまして、今年度は2千万円しかございませんのを6千万円にする計画でございます。

また、文化施設の大規模改修につきましては、東京都美術館の改修実施設計、芸術劇場の改修での基本計画等々の予算を計上してございます。

以上でございます。

福原会長

それでは、吉本さん、どうぞ。

吉本専門委員

それでは、私の部会から2つご報告いたします。

1つは、都立文化施設のあり方でございます。前回、上野の東京都美術館についてご報告しましたが、今回は池袋の東京芸術劇場についてでございます。東京芸術劇場は、前回、宮本評議員からも音響の点の課題などが指摘されまして、築20年ぐらいたっているということでハードの改修が課題になっていたわけですが、部会ではソフト面を含めた改

革の方向性について議論いたしました。

その結果、3つの方向性とミッションに整理いたしました。1つ目は、芸術文化創造発信の拠点として、都の音楽・舞台芸術を代表する顔として、作品の創造や国内外への発信を行うこと。2つ目は、教育普及・人材育成の拠点として、現場を支えるプロフェッショナルの育成、子どもたちへ本物の芸術を伝達すること。3つ目は、にぎわいの拠点として、芸術の香りのする、楽しくにぎわいのある空間を創出する、という3つでございます。

そのための具体的な事業展開の方向性としましては4つでございます。1つ目は、国際共同制作などの自主事業、2つ目は東京国際舞台芸術フェスティバルの開催、3つ目は在京オーケストラとのフランチャイズ、そして4つ目は劇団などとの連携強化でございます。

こうした方針を実現するために、主要な3つの施設について機能転換の方向性を議論いたしました。大ホールにつきましては、東京、日本を代表するシンフォニーホールへと転換を図る。中ホールにつきましては、日本を代表する舞台芸術の専用劇場への転換を図る。小ホールでは、実験的な色々な創作活動を行うというのがその方針でございます。

その方針に基づきまして、ハードの改修です。目的としましては、創造発信拠点としての機能転換を図ろうということですが、建物全体の設備の劣化、ユニバーサルデザインへの対応に加えて、舞台関係の機構につきましては、当時かなりハイスペックなものだったわけですが、今日の状況と変わっているということがございますので、最新スペックとしつつも汎用性のある舞台機構につくり変えようという方向性が出ております。

具体的な改修ですが、まず劇場のデザイン、イメージをぜひ刷新を図りたいということが1点目です。大ホールにつきましては、いすとか音響を含め、かなりグレードアップをしようということ。中ホールにつきましては、搬出入などの技術的な問題がありますので、それを解決しようということでございます。小ホールは、フロア全体を含めて、もう一度劇団との連携強化などができるような改修をしようということになってございます。

これらを実現するために、組織体制とか予算も検討ということですが、既に皆様ご案内のように、野田秀樹さんが芸術顧問として就任されることになっておりますので、引き続き今後も検討していきたいと思っております。

部会からもう1つですが、芸術文化支援のあり方についてご報告いたします。これはあくまでも途中段階、中間的なものでして、最終的なものはことし8月までにまとめるということで検討をしております。

まず、目標ですけれども、「10年後の東京」にあります伝統と最先端が織り成す東京の魅力的な文化を発信すること。それから、文化振興指針にございます、創造的な文化を生み出す都市・東京を目指そうということが政策目標としてあるわけですが、課題としましては、都市間競争の激化、いわゆる創造都市が国内外で台頭しているということ。そういう状況に比べて東京では、芸術文化創造活動の基盤が非常に弱いというような認識を部会ではしております。

これらを達成するために、総合的な支援策を考える必要があるだろうという結論に現在では至っております。それは3つでございます。1つ目が資金による支援、2つ目が場や施設による支援、3つ目が制度やソフトサービスによる支援でございます。

資金による支援の具体的な内容としましては、予算を拡充しようということ、創造活動の支援を重視したアーティスト・クリエイター支援制度を創設しようということ、子どもや高齢者とアートをつなぐような多様なコミュニティプログラムの支援制度を創設しようということでございます。

1番目の予算の拡充につきましては、来年度、現在の予算の3倍ということで6千万円というふうに拡充が既に決まっておりますが、残念ながら、正直に申し上げまして、例えばニューヨークのアーツカウンシルでは45億円、シンガポールでは5億円というような助成金の規模を持っておりますし、都内の民間財団と比べてもこの6千万円はそれを下回る金額になっております。これは引き続き部会でも、なぜ増やすべきなのかということも含めて検討したいというふうに考えております。

2つ目の場や施設による支援でございますけれども、1つ目は、都内の遊休となる高校を創造活動の拠点にしようということ。それから、芸術団体の創造活動を下支えするような都立文化施設のプログラムを強化しようということ。3つ目は、都立の施設だけではなくて、市町村とか民間施設とも連携を図ろうというようなことでございます。

3番目の制度やソフトサービスによる支援ですけれども、今部会で検討しておりますのは、例えばプログラム・オフィサーですとか、マッチング・グラントですとか、評価といった総合的な支援の効果を高める制度設計をぜひやりたいということが1つ目。それから、情報提供などのソフトサービスとか、人を介した支援を行うこと。3番目としまして、税制とか、まちづくりの面で芸術の創造活動を支援できないだろうかというようなことを検討しております。

以上、部会からの報告でした。

福原会長

ありがとうございます。

それでは、続いて後藤部会長代理に。

後藤専門委員

ランドデザイン部会の埼玉大学の後藤和子と申します。今日は、部会長の小林真理が都合で欠席のため、私が代理発表とさせていただきます。

ランドデザイン部会は、まだ中間の段階なのですが、東京都の文化政策をどのように大きな方向でかじを取って変えていったらいいのか、課題は何か、そして私たちができることは何かということはずっと議論してまいりました。最も問題だと思いましたが、先ほどから、オリンピックにおいて文化というのが初めてロンドンで位置づけられたというお話を伺っているのですが、日本の行政あるいは日本の色々な場面で文化というもののポジションが非常に低い。それは、予算にも端的にあらわれていると思うのですが、もう少し文化のポジションを上げるということをするためには何が必要かということをお話し合ってきました。

まず、文化をめぐる状況がどうなっているかということを押さえておく必要があるということで、第1番目に、文化の意味が変容しましたねと。これはいわゆるハイカルチャーとポピュラーカルチャーといったようなくくりではなくて、先ほどのロンドンのプログラムにもありましたけれども、ストリートからアートが生まれてくるといった状況にもなっております。ストリートとアートみたいなところの境がなくなってきて、文化の意味が非常に変容しているのだということを押さえた上で、社会経済における文化の位置づけが画期的に変化をしているでしょう。ロンドンでもクリエイティブ・インダストリーとかクリエイティビティ、知識社会への移行というふうなことを強調されていましたが、既に世界はそうなっているのに、そのことが日本の中でまだそんなに認識されていないというのが課題だろうというふうに位置づけました。

そういうふうに考えてみると、文化政策というのは、何かほかの政策が終わった後の周縁的あるいは周縁的な政策というよりは、都市政策の中心に持ってくるべきポジショニングをとれないかというのがランドデザイン部会で考えていることでございます。そのためには、行政が担えばいいというふうなことではなくて、全ての人の力を引き出すような仕組み、これは企業でも市民でもアーティストでもですけれども、東京にいる全ての人の力と責任を引き出すような仕組みが必要だろうというふうに話し合ってきました。

当面の目標として何を置くかということですが、今私が話したようなことを都庁内外における共通の理解にしていく。その考え方を個々の施策に反映する仕組みづくりをしていくことが必要なのではないかということです。

そのために何をやるかということで、今考えているのが3つのアジェンダですが、1つは、総合政策として文化政策を展開するために行政組織も考えていくということです。公園だって能などもできるのに、あまり意味のあるように使われていないという状況がなぜ起きてしまうかというのを、私は研究者ですから研究的に見ますと、それはやはり行政が今まで縦割りで行われていて、例えばパブリックアートを設置するなどという予算は都市整備局から出ているわけですが、恐らく都市整備局の人たちはその空間にどういう文化が必要かといったようなことはあまり真剣に考えておられなかったかもしれない。やはり全部の部局で文化ということを考えていく仕掛けをつくっていかないと、なかなか改善されないのではないかと、全部の部局に来ていただいて、その部局が何らかの文化的なことにかかわっているはずですので、そういうことに横串を刺せるような仕組みをつくっていきたいというのがまず1番目のアジェンダです。

2番目は、東京には本当に文化的に異なった背景を持った人たちが住んでいますし、社会的疎外の問題もあります。先ほどのケリーさんのプレゼンテーションをうかがって、私も、若者とか世界とつながろう、文化をつくっているのは本当に人なんだということで感銘を受けましたけれども、東京に住む多様な人たち、あるいは社会的疎外の問題にアートでどう答えていけるかというふうなことを2番目のアジェンダにしたいと思いました。

3番目ですが、そのためにはやはり文化に責任を持つ部署としてのアーツカウンシルというふうなもののあり方を検討し、そして研究者が何らかのことでアーティストと一緒に貢献できるのであれば、そういう研究機関の設立ということも課題にさせていただきたいと思います。

以上です。

福原会長

ありがとうございました。

ただいまのアーツカウンシルが必要というお話がありましたが、本来はアーツカウンシルをつくるつもりでこの芸術文化評議会ができましたけれども、いわゆる世界的な認識でのアーツカウンシルの機能は持っていないというのが現状でして、もしそうであるならば、それをオリンピックを契機にさらに実質的に高めていくこともあるのではないかと。今お話

を伺ってみると、そしてまた、今日ジュード・ケリーさんをお迎えしてお話を聞いてみると、必要なのはプログラムよりもまず人材だということが感じられるので、プロデューサーあるいはプログラム・オフィサー、そういう人たちを育てていくにはどういうやり方が必要かということも我々は考えていかなければいけないのではないかというふうに思ったわけですが、私1人がしゃべっているといけませんので、どうぞ。

石原知事

まさにこの会合をそういうふうにしてください。権威づけてくださいよ。

福原会長

分かりました。

石原知事

今、私も就任してから一番大事な仕事をしたと思うのは、国がやっていない会計制度を変えたんです。これはまた専門的過ぎて評価してくれないんですが、その効果がいかに出ているか、それを一番評価してくれたのは外部監査人なんですよ。外部監査というのは、みんな嫌がって入れなかったのに、法律で決まったら入れ出した。外部監査を入れると、いかにめちゃくちゃなことをしているかよく分かってきた。もう有無を言わず、とにかく指摘されたところは改良させているのですが、このカウンスルだって、それをやってくださいよ。まさに文化に関する、芸術に関する外部監査人になっていただいたら結構なので。

だから、旧前田邸だったら、森さんなど、余っている絵もあるでしょうから、あそこを美術館にして巡回展みたいなことをしてもらおうとか。とにかく放置してあるんですから。都に責任がない、区の責任か知らないけど、ああいうことの指摘をやってくださいよ。

福原会長

ありがとうございます。

激励されて、また責任を負わされたような形ですけども、皆さん、どうぞよろしくお願いします。

鳥海評議員

先ほど安藤さんが場の提供ということをおっしゃっていたのですけれども、これは非常に重要だと僕は思うんですね。例えば国際フォーラムで、たびたび色々話しますけれども、あそこは素晴らしい場を経営者である私に与えてくれたんですね。あんな素晴らしいところはないんですよ。それと同じようなことがあの東京駅の周辺にたくさんあるんです。夢

みたいな話じゃないんですよ。現実にはやっていったらいいことがたくさんある。

まず、東京国際フォーラムですが、例えばラ・フォル・ジュルネというのは、フランスでやってあって、十何年やって、やっと今15万人の人たちが集まります。今百万人ですよ。このわずか3年間だけで百万人の人が東京国際フォーラムへ来るようになった。国際フォーラムというのがそういうことでだんだん知名度が上がってくると、あそこで何かやるのがアーティストにとっても、あるいは学者のグループにとっても非常にプラスだということで、また増えてくるんですね。

私が1つ、ここの事務局の方などにもお願いしたいのは、やっぱり場をまず提供することを考えたらどうだということなんです。例えばオリンピックでいえば、長野のように後でもってそれが使えなくなるとか、それが重荷になるというようなものをつくってもしょうがないと思うんです、場でもね。というようなことを考えると、もう少し長い視野でもって、東京都の文化をどうするのか。東京都のあの真ん中は文化の発信地ですから、その文化とか伝統を発信するところが本当に東京都としてあるのだろうかということなんです。それは色々な地域がにぎわってきましたよ。例えば森さんのやっている六本木のところとか原宿というのがあるんですけど、人間というのは回遊性があると思うんです。ですから、宮城というのは非常にいい我々の1つのシンボルなんですけど、あの向こう側に国立劇場があっても、あそこへ行く人がこっちへ流れてくることがないんですよ、宮城があるために。それは宮城をどうしようということじゃなくて、そういうような回遊性を考えたものの施設なんなりをつくる必要があると思うんです。

実は今、有楽町の真ん前のところに色々なところが来て相当活気づいてきました。あの横には東京都が広大な土地を持っているんです。交通会館も東京都が80%以上持って、あと20%は我々のパートナーの三菱地所が持っている。それから、その隣の無印とか、あそこにあるレストランも、全部仮設ですけども、東京都の土地ですよ。その後ろにあるところの豊田通商のビルも全部東京都のもので。あの周りに空き地があって、それはみんなパーキングエリアになっているんです。あれも全部東京都なの。それから、私たちの隣にあるビックカメラ、あれは三菱地所が全部土地を持っていて、上物を我々のパートナーでもあります読売新聞グループが持っているんですね。

僕はぜひ安藤さんに考えていただきたいのは、ここの土地を利用して、東京都の真ん中から文化を発信するところをつくりたい。それは、ここにおられる野村さんがやられるような伝統文化の場も提供したいし、オペラの場も提供したいし、それからミュージカルも

いいでしょう。そういうものを全部発信できるようなものができるんです、これだけの土地があったら。それができるのは東京都しかないんですよ。なぜならば、今の国際フォーラムだって、あの場所だけを買おうと思ったら、土地代だけで3千億ですよ。民間で誰が出しますか。ないですよ。だから、やはり東京都が50%以上持って、あとを民間がお手伝いして、あそこを文化発信の中心にしていくというやり方ですね。

そういうふうに考えると、例えば今フランスのオペラ座を見ましても、あの中に作業場から色々な練習する場所とか全部あって、1つのコンパクトの中で全て、芸術の発表もできるし、その支援もできるような形になっています。だけど、日本にそんなのがありますか。ないですよ。だから、そういうものをこの際つくみましょうよ。

そのためには、例えば今東京駅で一番問題になるのはJRの線路なんです。ところが、JRは我々のパートナーなんです。JRの色々な考え方はあるでしょうけど、なぜあの空中を使えないのでしょうか。これは、今、渋谷を見ると素晴らしいものができてきますよね。そういうようなことを考えて、空中楼閣をつくったら恐らく相当人間が回遊するんじゃないかと思います。これをぜひ今の事務局にやっていただきたいな。

例えばさっき芸術劇場の池袋の話がありましたけど、あそこへ行かれたことがあるかもしれませんが、あの周りが悪いんです。あの前の公園は、浮浪者もおりますよ、色々な人がおりますよ。それから、1つの決まった哲学がない。だから、公園を通過して芸術劇場へ入るまでが問題ですよ、僕に言わせたら。あそこからきれいにして一つの品格のあるまちにしないと、芸術劇場に行くつもりはないですね。東京都響はあれを使っていますよ。使っておりますけれども、例えばあそこの主体になるオーケストラをというような声もあるようですよけれども、果たしてそこへ行って自分たちの本拠にするオーケストラが手を挙げてくるでしょうか。東京都響にやってくれと言ったら、僕は断りますね。

というのは、やっぱりそういう文化をつくっていかなくやいかんということだと思っんです。今度のこういうようなオリンピックの話というのは1つのいい契機だと思っんです。オリンピックが実際に我々としてはとりたいのですけれども、できる、できないは別として、そういうような一つの文化をみんなでつくっていくのだということ。国際フォーラムの例えばラ・フォル・ジュルネも今は若手の人が来ている。フランスは高齢者が多いんだそうです。この間もプロデューサーが来て、日本のいいところは若手が来てくれていることだ。そういうことは今までフランスではなかったというんです。そういう意味では、ぜひ1つの具体的なものを通じて物を考えてこないと、物が実現するということがないと

思うんです。

特に東京都は、土地の問題は色々な局に分かれてしまっているんですよ、財務局だとか。これは今皆さんに話すと、やっぱりそれをつなげていこうという考え方がありますよね。だから、土地を1つ、交通会館をつぶすから、そこへ何か建てようというのじゃなくて、あの全体の絵を描いて、それを今から手をつけたら、16年まで間に合うかどうか知りませんが、すごくいいものができ上がってくるんじゃないですか。たとえオリンピックがとれなくても、それは大きな東京都の資産になりますよ。日本の資産になると僕は思いますね。

福原会長

ありがとうございます。

池袋の芸術劇場には、何であんなところにつくったかという話がありますけど、もうここで建て直すかわりにリノベーションするということになりましたら、逆に考えて、例えばポンピドーセンターができることによってあの周りの環境がよくなってしまったのと同じようなことができるのではないかということ期待する。おっしゃるとおりですけどね。

鳥海評議員

そのとおりですね。だから、行政がそこら辺もよく考えてやらないとね。行って、素晴らしかった。音楽も素晴らしかったけども、やはりあの雰囲気がいいじゃないかということにしたいですね。

福原会長

安藤さん、建築家として今のご発言をどうお考えになりますか。

安藤評議員

私はあのあたりのことはあまり知りませんが、やはり、“箱モノと言われたいような、生きた場所がほしいですね。

鳥海評議員

もう美術館だけで3つできるんですよ。だから、これは回遊してつなげよう。出光があって、私のところに相田があって、それから今度は三菱さんができますから。回遊バスを回していますけどね。

安藤評議員

今、品川も汐留も今のところもそうですけれども、割とぶち切れなんですよ。つながっていないんです。人間が歩いて行けないですね。まちというのは歩いて行けないとまず

いですので、もう少し回遊できるように、やっぱり人間中心の都市づくりをして、何か1つずつがパチパチ切っただけのものはいけないと私は思います。もし今おっしゃっているあのあたりのエリアが連続していくように、もうちょっとつながっていく仕掛けをしないと、いけないと思いますね。それが、ハードなのかソフトなのかは別として。

鳥海評議員

特に知事に頭に入れておいていただきたいのは、あの銀座はあまりにも土地が高くなってしまって、これからは買う人も限られてくるでしょうね。その土地の値上については行けなくなってくる。もうこの1年間ぐらいで3割とか5割上がってしまっているんですから。

石原知事

店屋があれば行くだらう。

鳥海評議員

それが、例えば色々な有名店が出てきていますよね。あれがみんな上げちゃっているんです。そうすると、やっぱり都の持っている土地とか、それから三菱さんがこれから壊してもやろうとしている土地がすごく重要な土地なんですね。私のところはそのパートナーと一緒に街作りの若い人たちの研究グループを立ち上げました。

それから、もう1つ言いますと、皇居広場の問題、これは早急に2016年までにきちんと直すべきですよ。あの点灯、明るくするという事は非常に重要だと思うんですね。これは我々も動き始めました。地域としてそういうことを政治にも頼むということをお願いし始めましたので、みんな関心は持っているんですよ。だけど、誰も知事のように鈴をつけてくれないんです。

福原会長

ほかに。せっかくの機会なので、何かありますか。

宮本評議員

今のお話にとっても共感する部分があるのですが、僕は池袋の芸術劇場をどうしたらいいかということを考えて、一応今おっしゃられていたことはご提案申し上げたのです。全て、まちづくりも含めて、それから駅からの道すがらのことも考えてご提案申し上げたのですが、何せ予算がということがまず第1にネックになっています。どうせ建っているものを見捨てるというのはとてももったいないことで、例えば池袋のみならず上野の文化会館、これも非常に響きがいいホールとして有名なんですね。世界的にも有名なのですが、あれも孤立している。ですから、回遊できるようなものをつくっていくというのはとても大事

なことだとも思います。それに反対しているわけではありませんが、既存の建っているものをどうするのか。そのままつぶして売ってしまうのか。あるいは、何とかそれを上手に使えるようにするのか。特に例えば東京都が持っているホールで、上野の文化会館は本当に響きは素晴らしいのですが、芸術劇場も、本来だったらそのポテンシャルはあるのに、何も手つかずになっている。また、そこにネックになっているものがあるにもかかわらず何も手つかずにして、そのままにしておいた。それ以外にも前に知事にはちょっとだけ小声で申し上げたのですが、これも難しい話ですと一蹴されてしまったんです。

それから、別の部署からですけれども、日比谷公園、これは非常に素晴らしい場所だと、僕はこんないい場所はないと思っているんです。公園は日中皆さんが利用されて、野音は使われているのだけど、日比谷公会堂が全く誰の所有なのかが分からない、どこに帰属するのも分からないという非常に複雑な事情があるらしいんですが、そういうものをほったらかしにしておくというのはとてももったいないことだと僕は思うんですね。ですから、例えば立地条件からいえば、皇居のすぐ隣、そして演奏会の後でも回っていけるようなレストランもあれば、ホテルもあるし、駐車場もあるしというようなことで、あその場所も本当は何とかなければいけない。

細かく、皇居が真ん中にあるからと考えずに、皇居の周りを全部、例えばそこさえも回遊させてしまうというような。もちろん安藤さんがおっしゃったように、歩いては行けません。けれども、中心にあるようなものを盛り立てていくというか、場所的なことを盛り立てていくというふうにしたほうが良いと思うのです。個人的に言わせていただくと、人間がもちろん回遊するようにつくるのは結構なことなんですけれども、人間が見上げて、うわっ、これはどうしたらいいんだろうな、この中を全部歩いて回るってちょっと、と思うような人間がつくった建物というのは威圧感いっぱい、僕はあまり……。

例えば東京都内でこれとは申しませんが、ものすごく大きなデパートがあるんですが、本当に中を歩くだけで嫌になってしまう。ですから、歩いて行けることはとてもいいことだと思うんですが、建物を何が何でも全部結びつけて大きくしてしまう、あるいはそれに引き入れてしまうというのはどうかと思いますし、人間にとって、いわゆる肌で触れる限界の大きさというのもあると思うんですね。あまりに巨大になり過ぎてしまうと、やはり人間は拒否反応を起こすんじゃないかなというのが僕の気持ちではあるんです。

ということで、池袋のほうも本当に残念なんですけど、お金がこれだけしかない、あるいは色々と問題があるというので、本当は前のエリアも使ったこと、それから新しく駅もで

きますし、その駅から劇場までということもご提案申し上げたのですが、なかなか難しい問題があるようです。別にお金を使えということではないんですが、やり方いかんによっては、あの芸術劇場、決して悪い建物だとは僕は思っていないんですね。どっちかというのと、非常に魅力的なものになり得るんじゃないかなと思っています。もしそうでないというのだったら、本当にこの際はっきりと整理して、もっと別のところに集中して使えるように売りましょうというようなことを考えるか。何か考えないと、そのままにほったらかしにしておいてというのは、あまりにもったいなさ過ぎるかなと。

猪瀬副知事

芸術劇場はそんなに稼働率が低いんですか。

宮本評議員

音響が悪いがためです。本当は賃貸料がとても安くて、オーケストラが利用して、もう本当にうれしくてしょうがないはずなのにもかかわらず、中の音響がどうしても満足いくものではないので。

猪瀬副知事

何でそんなものをつくったの。

宮本評議員

それは分かりません。

猪瀬副知事

音響の悪いホールをつくって何になるの、一体。

鳥海評議員

猪瀬さん、音響というのは、東京国際フォーラムが数年前まで全然だめだったんですよ。金かけなきゃだめなんです。それは専門家の人が入って金をかけて、音響板を入れたりなんかして、今はもう最高だと言われているわけですね。それは実際に宮本さんみたいに指揮する方にきちっと見てもらわなきゃいかん。

石原知事

宮本さん、文化会館は音響効果がいいと言ったけど、あれ、最初にできたときに、小澤さんがバーンスタインのサブをやっていたんですよ。ニューヨークフィルを持ってきて、ある部分を小澤さんにやらせてバーンスタインが聴いていたら、全然聴こえないところがあった。それで大変だということで、オーケストラを前に出して、全然聴こえない。下げたらやっと聴こえたんですよ。その後ですよ、横へ音響板ができたのは。

鳥海評議員

そういう手入れをしてあげないと、新しくホールをつくり直すのでも、いわゆる音響設計する方というのは、理論的にここから出た音はここにはね返ってこういうふうに聴こえますとおっしゃるのだけど、そのとおりにはなかなかならないんです。

石原知事

これはメカニズムがいまだに分からないんだ。だから、日生をつくったときに僕が一番心配したのは、文化会館みたいになっちゃいかんというので、本当に苦労したんです。ところが、やっぱりあそこでもバルコニーの下の2列だけはデッドスポットなの。

宮本評議員

でも、それが極力少ないホール、少なければ少ないほどよいホールと呼ばれて、全てが良いというのはとても困難なことなので。話が広がってしまうのですが、本当にあるものは何とか利用したほうが良いだろうし。

石原知事

芸術劇場はそんなに音響が悪いですか。あそこは入都式にしか、私は行かないんだよ。そんなに悪い、アプローチも……。

宮本評議員

池袋は具合悪いと思います。でも、あれはポテンシャルはあるし。

猪瀬副知事

この建物も全然音響が悪いよ。役所だからいいけど、悪くたって。会議のとき聞こえないことがあるもの。

宮本評議員

スタンスをどうするか、手を入れるのか。入れるのだったら徹底的に良くする。そうでないのだったら何とかほかの処置を考えるとというふうにするべきだと僕は思うので、おっしゃったようなご提案は一応申し上げたのですが、なかなか難しいんです。それが現状です。

福原会長

ありがとうございます。

吉本部会長からちょっと。

吉本専門委員

今、芸術劇場のことが議論になっていますので、検討の状況を少しお伝えしますと、部

会では、前の広場も当然議論になりました。それから、広場と続いているアトリウム、その辺も議論になりまして、何せそのあたりの雰囲気を全面的に改善する必要があるだろうということは部会としても認識しております。

ただ、今、宮本評議員のおっしゃったように、専門家にも色々聞いたのですが、大ホールも音響を良くするポテンシャルは十分にあると。だから、手を入れて、ちゃんとメンテナンスをすれば一流のシンフォニーホールになるだろうというような専門家の方々のご意見を伺って、その方向につくりかえたらいいのではないかとということです。それもハードを変えるだけではなくて、やはりソフトが充実しないとだめですので、あそこでとにかく魅力的なプログラムをやり、東京を代表するような複合文化施設になるべくソフトを強化しようというのも我々の部会で強く議論したポイントでございます。

(石原知事退席)

鳥海評議員

池袋というのはたくさん人がいるんですよね。あそこら辺の人が上野へ来るか、あるいは東京フォーラムのところへ来るかということ、そうでもない。

猪瀬副知事

時間がないので、今の話をまとめますと、回遊の問題というのは、例えばロンドンの場合は、ケリーさんがいらっしゃいますけど、車が一定のエリアに入る場合にお金を取ることをやっているし、パリでは、自転車を割とあっちへ置いたりこっちへ置いたりして、それを使える、シェアしているというわけです。例えば最近できた田町あたりの集合住宅も1つの例ですけれども、ペダルを踏みやすい電動自転車がありますでしょう。あれを70台ぐらい管理組合で置いたら、3百世帯ぐらいだと思いますが、もうその自転車をみんな使うんです。皇居までそれに乗っていったり。

そういう考え方で、動き方を今のスタイルに変えていくということができるので、固定的な箱物のレイアウトの問題とは限らない。我々の動き方の問題で変わってくるわけですね。だから、今ケリーさんがいらっしゃるし、ロンドンのように、色々な車を入れないで歩いたり、公共交通機関を利用するというあるエリアを決めてしまうとか、そういうこともありますから、そういう流れの中で、今日のオリンピックの話を含めて、我々の都市の姿はどうなるかということを考えていくということです。それをちょっと加味していただきたいなど。

福原会長

ありがとうございました。

何か盛り上がってきたところなのですが、タイムアップになりましたので、今日の皆様のこのような議論を踏まえて、各部会でもっともう一度検討していただきたいと思っております。

ケリーさん、最後にどうぞ。

ケリー氏

幾つかコメントをしたいと思います。よそ者ですけれども、コメントをしてもいいでしょうか。私がこれを言っても気を悪くしてほしくないんですけれども、幾つか気が付いたことがあります。

非常におもしろい提案がたくさん出ておりました。でも、1つ気が付いたことがあるのですけれども、アクションが伴っていない。全然アクションに関する決定が下されていない。それは皆さん方のアクションのとり方が私と違うのかもしれませんが、でも、こういうご意見がありました。これは重要な発言だったと思いますけれども、6千万円まで文化予算を増やす、しかし、シンガポールの場合には5億だと、そういうお話がありました。クリエイティブシティになるのだというコンペにもし出るとしたならば、6千万では本当にプアだということになるでしょう。ですから、この評議会におきましては、予算を急激に増やすためにはどういうアクションをとらなければいけないかというようなことを十分議論されるべきだと思います。

それから、古い建物が全く使われていないと。ところが、後藤さんからは、これが別の局の管轄になっているために文化的に使うことができなかつたんだというようなご発言もありました。ですから、アクションなんです。アクション、知事もおっしゃるだろうと思います。各部局がまとまって、そして文化のために、今全然使われていないというものに関して使うというためのアクションを下すということだと思います。

3つ目に気が付いたところは、利用の仕方が悪いと。それから、今建っているものの質が悪いと。また、新しい建物を集合的にどう建てることのできるかという話がありました。今日の午前中の会議だったのですけれども、文化が若い人に何をオファーできるのか実感できないという発言があったんです。ですから、それを実感させるためのアクションというのは何なのか。若者を集めて、そして文化的なプロデューサーも色々なビルディングに入れて集めて、そして前もって役人がそこに行って、一体、自分たちのまちに何があるの

かということを知って、それぞれのビルディングのオーガナイザーからプレゼンを受けて、何が必要なのか、何がなされているのか、何が必要なのかを知っていく。そうしたら、そういった異なったビルで、1つだけではなくて、多くのビルでフォーラム、場が開かれるでしょう。そうなれば、本当に文化を担当する人も、一体、文化生活がどういうものかということが分かるでしょう。そして、ちゃんと情報を持ったオーディエンスということになります。

ただ、これはコメントなのですから、何かを起こしたいということをおられるのに方法論がないということであるならば、アーツカウンシル的なものが必要だと。そして、これをやってほしいんだということをおちゃんと指令として出さなければいけないと思います。予算も増やさなければいけない。シンガポールよりも増やすようにしなければいけない。そしてまた、オフィスを色々なところでオーガナイズして、違ったようなプレゼンテーションもあり得るでしょう。だから、こういう場をアクションにどう転換するのか。私は無知だからこういうことを言うのだらうと思いますけれども、この皆さん方の場をどうアクションにするのか。それが一番申し上げたい点でした。

福原会長

ありがとうございました。

今のようなコメントをいただいて、これを最後に今日は終わらざるを得ません。今のうちに各部会で色々なことを考えておりますけれども、それを含めて来年度から芸術文化発信プロジェクトが走り出すわけですが、そういうものの総括したプロジェクト名というのはやっぱり要ることになるんじゃないかと考えております。それについては今アイデアをいただくということではなくて、そういうことがいずれ必要ですよということをお願いして、皆様に少しずつでもお考えをいただければというふうに考えています。

これからも引き続き各専門部会で検討していただくわけですし、それをアクションに結びつけることについては、これまた生活文化スポーツ局の皆様ともお話をし、そして副知事にも一役買っていていただいて実行に移していただきたいというふうに考えています。

それから、オリンピックのためのキャッチコピー、オリンピック文化プログラムのためのキャッチコピー、あるいはオリンピックのキャンペーンマーク等については、前にご案内をしましたが、現在、都の所管部署で制作をしつつあるというふうに伺っておりますので、次回評議会に報告していただくことになろうかと思っております。よろしくお願いいたします。

最後に、事務局から次回のスケジュールについてお諮りをいたしますので、よろしくお願いいたします。

杉谷文化振興部長

次回でございますが、8月ごろを予定してございます。中身につきましては、オリンピックの文化プログラムにつきまして、ぜひ答申案まで確定しましてご審議をいただこうと思っております。また、事務局から、今、会長からお話がありましたキャッチコピー、キャンペーンマークにつきまして、その結果についてご報告をさせていただきます。

以上でございます。

福原会長

ありがとうございました。

今日は、皆さんご出席をいただきまして、またジュード・ケリーさんには重要なサジェスチョンをいただきまして、ありがとうございました。

これをもって第3回の東京芸術文化評議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後3時07分閉会